

眞実は笑わない

（菜穂子篇）

中野  
劇団

# 眞実は笑わない （菜穂子篇）

作・中野 守（中野劇団）

## 登場人物

香芝しば 薫かおる 船長 四十七歳

香芝マミ 二十二歳

香芝菜穂子なほこ 十九歳

香芝蓮司れんじ 靴磨長 十七歳

香芝葉子ようこ 料理長 五十二歳

三郷さんごう 船医 四十七歳

斑鳩いかるが 操舵手 四十六歳

高田たかだ 事務長 四十七歳

菜穂子 何これ…。

舞台は木造帆船のキャビン。中央にテーブルがあり、その上にキャバ嬢風の若い女、香芝菜穂子が意識なく横たわる。指先から意識が戻り徐に目を開く。眠っていたことに気づいた菜穂子、上体を起ここうとすると、頭を打ったのか、何らかの薬のせいなのか、頭痛と吐き気に襲われ、大きく咽せる。手には封筒。何故、手の中に封筒があるのか煩わしく思う。着ている格好を確かめ、裸にされていないことへの安堵感と、仕事着のままであることへの疑問を持ちつつ、足下に賭けられていた毛布をすり抜け、フラフラではあるが、漸く床に足をつけて戸惑いの表情で部屋を見回す。見たことのない板壁。部屋の開口部からテラスのように外に出ることができ、その手すりの向こうには、無限の海が広がる。

突然、聴覚がよりクリアに波音を拾い始める。テラスとと思っていたのはデッキへ繋がる通路。最初に自分がいたのはキャビン。船であることに気づき始める。慌てて、内へ戻るといつの間にか開口部すぐ傍に男が頭から血を流して立っている。驚き、悲鳴をあげ、床を這い蹲って距離を置く菜穂子。ゾンビ映画のように菜穂子の後を追いかける斑鳩。おろおろしながら、自分でもどうしたらいいかわからず、カウンターに絵本が置いてあるのを見つけ、そうすれば二人の間に生まれたパニック的空気を鎮められるとでも勘違いしたのか、いきなり朗読を始める。

斑鳩　むかしむかし！

菜穂子　（流血で朗読が恐怖で）　いやあ！

斑鳩　ヨーロッパの西の果て、ポルトガルという国に、ひとりの若い優

秀な船乗りがいました。

**流血男が、絵本を朗読している光景がただただシユールに怖い菜穂子。**

斑鳩　ポルトガルの船乗り達は、インド洋や東南アジア周辺の海を旅し

ては、当時ヨーロッパでは大変貴重だった香辛料を国に持って帰って来たり、途中立ち寄った島の原住民を奴隷にして連れて帰ったりしました。若者の航海の腕は確かでしたが、あまり奴隷狩りには参加しなかったので、幾ら頑張っても功績を認めてもらえませんでした。

口、半開きの菜穂子。

斑鳩

自分の船を持つことも許されず、代わりに東南アジアから連れて帰ったエンリケという奴隷を与えられて召使いにしました。…若者はずっと…。

菜穂子

その本…。

斑鳩

考えていました。アフリカを迂回してインドを越え、東洋へ行くのは遠過ぎる。でも、もし世界が丸いというのが本当なら、コロンブスの見つけた新大陸の更に向こうへ進めば、そう反対回りでアジアに辿り着くはず、それは今のルートよりきつと近道に違いない。

菜穂子

ちよ…。

斑鳩

若者は国の偉い人達に出航許可を貰いに行きました。でも、国中の誰も認めてはくれません。そこで若者は隣の国に行きスペインの国王にお願いに行き、認めてもらいました。成功すれば英雄。ヒデオと書いて英雄。若者は妻と子供を残して、危険な旅に出る

決意をしました。

菜穂子　　ここ、何処？　…キヤ！

木の軋む音とともに揺れる部屋。斑鳩と菜穂子、体勢を崩す。

菜穂子　　…船？

状況が掴めない菜穂子。

斑鳩　　…嵐、止んだな。

菜穂子　　何？　え？　ええ？　えっと、店出て、タクシー拾って…。タクシー  
…。

拉致の回想（音響）。

菜穂子声「離せ！　何すんだよ！」

車のドアを閉める音。暴れる菜穂子。

三郷声「いいわ、車出して」

高田声「ちよ、早く眠らせろって！」

斑鳩声「わかってるって！ 何で錠剤なんだよ」

三郷声「だって」

高田声「向こうも上手くいってるかな…」  
車の走る音。

菜穂子（息が荒く）…。

斑鳩 …大丈夫か？ …菜穂子ちゃん。

大丈夫そうでない斑鳩。

菜穂子（退き）誰？

斑鳩 …。

菜穂子 何で私の名前知ってるの？

斑鳩 どした？

歩み寄る斑鳩と立ち上がれず退く菜穂子。菜穂子の背後から触れる手。

菜穂子 キャア!?

思わず短い悲鳴を上げる菜穂子。その背後に立つ蓮司。

菜穂子 蓮司!?

斑鳩を睨む蓮司。

蓮司 血。

斑鳩 え?

蓮司 血。

蓮司、斑鳩にタオルを渡す。

斑鳩 ああ…。

血を拭く斑鳩。

斑鳩　あああ！

蓮司　あああ！（わざと）

斑鳩　…。

蓮司　…菜穂姉…。

菜穂子　（蓮司を疑い）蓮司、何なのこれ…。

頭を掻きむしる蓮司。息切れが収まらない菜穂子。

菜穂子　蓮司？ …ねえ、ここって何処？　何が起こってるの？

蓮司　ちよちよ落ち着けて。

菜穂子　落ち着けて、こんな。蓮司、何か関係してるの？　その人、蓮

司の仲間なの？　ねえ？

蓮司　（斑鳩に）何おどかしてんだよ。

斑鳩 ええ？

蓮司 (菜穂子に) 説明したってどうせ全然理解できないと思うけど。

着席する蓮司。

蓮司 …家で晩飯食った。

菜穂子 え？

蓮司 そしたらいきなり親父がわけわかんないこと言い始めてさ。

菜穂子 …何て？

蓮司、硬直。

菜穂子 え？

蓮司、静止。

菜穂子 …蓮司？ え？ 何これ。ちよ、蓮司い!? ちよっと！

三点鐘（航海中、時間を知らせる鐘の合図。この芝居では回想の入口の意）が響く。食卓。父の薫と母の葉子、パンダの着ぐるみが突然それを囲んでいる。但し時間が止まっているので、四人は食卓を囲んで静止画像の如く動かない。

菜穂子 え？ え？

三人に怪訝な視線を注ぐ菜穂子。

菜穂子 …!? 父さん!?

目の前で手を振るも反応はなし。後ずさる菜穂子。部屋の奥にある別の木箱が明るくなり、菜穂子に着席を促す斑鳩。

怪訝なまま、それに従う菜穂子。同時に、食卓は時間の概念を取り戻す。驚く菜穂子。その光景を呆然と眺めていたが、やがて薫が開口する。蓮司の回想であることに気づく菜穂子。斑鳩はすーっといなくなる。

薫 そんなわけだ蓮司。

蓮司

…。

薫

おまえに相談もなしに話を進めたのはまああれだけど…。

葉子

お父さんも散々悩んだ上での決断だから。

蓮司

…意味がわかんねえんだけど…。

薫

…うん。まあ無理もない…。当然だろう。

葉子

いきなりお父さんが脱サラなんて言えばね。

蓮司

そこじゃなくて…。

薫

僕だって自分が脱サラするなんて考えて…。

蓮司

それはいいよ。…脱サラはいいよ。今日び珍しいことでもないし。

薫

…うん。

蓮司

な、どういう意味？ 海賊になるって。

間。

薫

…。

蓮司 答えてよ。何？ 脱サラして海賊って。

葉子 うん、そう。そうなの。

蓮司 そうなのじゃないよ。

葉子 詳しいことは海の上で話すけど…。

蓮司 今話してよ。

薫 今の仕事続けながらとも考えたけど、やっぱり脱サラしてやった

方が…。

蓮司 だからいいって脱サラは。何？ 海賊って。

葉子 わからないことがあれば聞きなさい。

蓮司 だから聞いてんだよ。海賊って何なんだよ。

葉子 話せば長くなるわよ。

蓮司 いいから説明してよ。

葉子 古くは、北欧のノルマン人がヨーロッパ各地に…。

蓮司 そういうこと聞いてるんじゃないよ。脱サラして海賊になるって

いうのがどういふことかって聞いてるんだよ。

薫  
母さんお茶。

間。

蓮司  
ちよ何なのこれ？ 何の冗談？

薫  
冗談でこんなこと言うわけないだろ。

蓮司  
つまんねえ冗談にしか聞こえないんだよ。面白くねえんだよ。

葉子  
蓮司が生まれてからお父さん、すっかり面白くなくなったのよ。

蓮司  
俺のせいみたいになうなよ。

葉子  
今日、お別れ会だったんだって。

薫  
いいお別れ会だった。

蓮司  
何で会社辞めなきゃいけないんだよ。リストラされたの？

薫、まじまじと蓮司の顔を見る。

蓮司  
…なあ、俺はどうなるんだよ。

薫  
（ぼそ） どうってそら、蛙の子は蛙っていうか。

蓮司  
どういうこと？ 俺、やんねえよ。

葉子  
ナマズの孫じゃないっていうか。

蓮司  
頭に浮かんだこと全部口するのやめてくれない？

薫  
決まったことだからさ。

蓮司  
勝手に決めんなよ。

薫  
もう届も出したし。

蓮司  
何？ 届けて。

葉子  
届も出したし。

蓮司  
だから何で繰り返す訳？ てか何処に出してんの？

薫  
頭金だって払ったし。

蓮司  
あたし…。あのさ、会社辞めるのは勝手だよ。何で家族巻き込むの？

薫  
巻き込むって、俺は死神ジャックか。

間。

蓮司

わかんないよ。

薫

解ろうとするんだ。

蓮司

できねえよ。

葉子

解ろうとするのよ。

蓮司

一々繰り返し返すなよ。会社辞めてどうするんだよ。俺の受験はどう…。

薫

何処の世界におまえ受験を心配する海賊がいるんだ。

蓮司

何処の世界に受験控えた息子を海賊にする親がいるんだよ！ 父

さんにはわかんないんだよ。今がどんだけ大事な時期か…。

薫、笑う。

蓮司

話聞けよ！

葉子

何？

薫

いや、…儂が高三の時にな…。

夕日、放課後のチャイム。

薫 母さんお茶。

蓮司 何か始まるんじゃないのかよ！

高田、凄い何の部活かわからない格好で登場。

高田 香芝、部活辞めるとか言わないよな。

蓮司 何部！

薫 おまえは、プロになること目指して頑張れ。

蓮司 だから何のプロだよ！

高田、素になって退場。

蓮司 終わりかよ。…ったく。

薫 何考えてんだ。

蓮司

俺の台詞だよ！湧いてんじゃねえの？

薫

親に向かって湧いてるとは何だ！

葉子、タイミングよくラジカセの再生ボタンを押す。食卓を引っ繰り返す音が流れ、薫、それに合わせてゼスチュア。葉子、テープを巻き戻して停止。

蓮司

何それ。

間。

薫

大学ってお前何処に行くつもりだったんだ。

蓮司

早稲田。

薫

何処の！

蓮司

え？

薫

蓮司座りなさい。

蓮司

座ってるよ。

薫  
いいからもっと座れ！

蓮司  
もって？

薫  
大体蓮司、どうして大学なんか行こうと思うんだ。みんなが行くからか。

蓮司  
どうだっていいだろ。

薫  
早稲田の海賊学科はどの位…。

蓮司  
ねえよ、んなもん！ 何勉強すんだよ、そんな学科。え？ 海賊

原論Aとか…。

薫  
母さんお茶。

蓮司  
さらっとシカトすんなよ！ つーか、さっきから飲み過ぎなんだよ。何で俺の時だけ自分で決めさせてくれない訳？ 菜穂姉だってمام姉だってやりたいようにやってんじゃないか。

薫  
مامだってなあ、真剣に考えてんだよ！ なあ。

パンダ、頷く。

薫  
ほら。

蓮司  
はあ？

葉子  
取りあえず船に乗ってればそのうちだんだん海賊になるから。

蓮司  
なんねえよ！

薫  
船に乗って、宝島を探したいとか、そういう人としての感情が蓮司にはないのか。

蓮司  
ねえよ。ふざけんなよ。

葉子  
蓮司の血は何色？

蓮司  
ないもん探しても意味ないだろ！  
てか、船もないのに何が海賊  
…。

薫、突然笑う。

蓮司  
何？

薫  
「思い出し笑い」って（笑う）。

葉子 もう、思い出し笑いで思い出し笑いなんかして。

間。

蓮司 はああ!?

薫 船は手配済みだ。父さんの古い友人が世界一の船を貸してくれる。  
蓮司ひとりのわがままを聞くわけにはいかないんだ。

蓮司 だったらまず菜穂姉に言えよ。俺にとにかく言う前に菜穂姉に言うべきことがあるだろうが。全然家にも帰って来ないで、やばそうな奴とばっか付き合ってるし。何で俺だけそんなわけわかんないことに付き合わなきゃいけないんだよ。

葉子 （バカボンのママの言い方で）バカボン。

蓮司 は？

薫 おまえはどうしてそう理不尽なんだ。

蓮司 どっちが！

葉子

はいはいご飯ご飯。

薫

母さんそんなサザエサニツクな言い方しないでくれよ。

蓮司

新しい言葉作んなよ。

葉子

味噌汁冷めるでしょ。味噌汁。

薫

味噌汁ってさ、母さんあの、海賊なんだからさあ。

葉子

味噌汁はアサリですよ。

薫

見たらわかるよアサリだよタニシじゃないよ。

葉子

タニシな訳ないでしょ。それともタニシの方がよかったですか。

薫

タニシの味噌汁なんて飲みたいとも思わないよ。

葉子

あなたにタニシの何がわかるんですか。

薫

わかんないけどさ。

蓮司

何、この家族。

葉子

それで大学で何を勉強するつもりだったの。

蓮司

哲学とか…。

葉子

！

薫 哲学だと？ あんな非生産的な…。

蓮司 海賊が言うな！

葉子 じゃ、ご飯片付けます。

薫 待ちなさいよ母さん。誰も食べないとは言っていないだろ。

葉子 なら、さっさと食べて下さいな。香芝君もほら。

蓮司 何で苗字で呼ぶんだよ。

パンダ、週刊誌を読んでいる。

蓮司 あのさ…。

薫 今日のご飯は味噌汁だけですか。

葉子 だってお金ないでしょ。

薫 退職金は？

葉子 だから頭金で全部飛びましたよ。

蓮司 何やってんの？

薫 マリーアントワネットって人がさ、その日食うのもままならない

民衆に向かって、何て言ったか知ってる？ パンがなければケーキを食べればいいじゃない。

葉子 その人洋食が好きなのね。

薫 フランスの人だよ。

蓮司 なあ、まだ話…。

葉子 日本語上手ね。

薫 フランス語で言ったんだ。

葉子 貴方、フランス語できるんですか。聞いてませんよ。

薫 僕はできんよ。

葉子 で、何なんですか？ そのマリーさんとワネットさんは。

薫 二人になっちゃったよ。論点ズルムケだよ。海賊の食事が味噌汁だけって、ちよつとシユールじゃないか？

蓮司 海賊じゃなくてもシユールだけど。

葉子 家計に余裕がないんです。

蓮司 家のローンもあるんじゃないか？

薫 どうする蓮司。

蓮司 こっちの台詞だよ。本当にどうすんの？ 仕事もしねえで。失業

保険貰うとかして…。

薫 貰えないんだ。

蓮司 何で？

薫 仕事決まってるから。

蓮司 そ…。それなら…。

薫 暴レル関係。

蓮司、薫に突っかかろうとした時、偶然パンダがいきなり立ち上がったため、割って入った形になり、蓮司、動けず。遠くを見つめる薫。

蓮司 何だよその遠い目は！

薫 いいか蓮司！ 譬え血の繋がった親子でも僕は船長だ。船長の言

葉は絶対だ！ 僕はマゼランになる！

薫、椅子の上でポーズ。

蓮司 なるってどういう意味？ マゼランって昔の人だろ！（吠える薫）

煩い！ それにマゼランって海賊じゃないだろ！

葉子 じゃあ母さんは安倍あべなつみになる。

蓮司 じゃあって何？ 言った者勝ち？

葉子 安倍なつみだって海賊じゃないわ。

蓮司 解ってるよ。

葉子 誰にもナツチって言わせない。

蓮司 言わねえよ。大体、船長って何？ 船はおろか、車の免許もない

だろ。だからリストラされたんじゃねえのかよ。

薫 煩いよ二代目。

蓮司 継がねえよ！ 痛。（椅子に）何？

薫 ああ釘が出てたから直しておいた。

蓮司 余計酷くなってるだろ。父さんが修理するといつもこうだよな。

薫の椅子と交換しろとばかりに目を向ける蓮司。

葉子 蓮司が船長の椅子を狙ってますよ。

薫 威勢がいいな。

蓮司 何言ってるの？

薫 母さん、このアサリ足が生えてるぞ！

蓮司、味噌汁を吹き出す。

葉子 あら嫌だ。魚松うおまつさんたらそそっかしい。

薫 そそっかしいで済みますのか？ アサリに足が生えててそそっかし

いで済みますのか。そういう次元じゃないだろ。

葉子 お金が足りなくてまけてもらったの。

薫 にしてもだな。

葉子 こんな所で足が出るなんて。

薫 巧いな。

蓮司

あのさあ。

葉子

アサリ？

薫

母さんが。

葉子

いやらしい。

蓮司

あのさあ。

薫

母さんこれ、多分、アサリじゃないよ。

葉子

嫌なら食べなくていいですよ。

薫

食べるよ。

蓮司

食べんのかよ！ ああもう！ おかしいよ。あんたら。

薫

あんたら？ 蓮司は親に向かってあんたらなんて言葉遣うのか！

**薫、発作。**

蓮司

ホントさ、付き合ってる暇ねえから。海賊ごっこか何か知らないけど、そういうのはさ…。

蓮司、急に睡魔が襲い、その場に突っ伏す。パンダも何故かそれを確認してから気を失う。葉子、蓮司の頬を叩く。蓮司反応せず。

葉子

あなた。

薫

海は死にますかーっ！（著作権やばい？）

豪快な波音。暗転。

稲光の中、一瞬姿を現す、被り物を被った女と雨合羽に身を包む船乗り達。

再び闇。豪雨の音。

次の稲光で被り物の女がテーブルの上に移動している。颯爽と頭を脱ぐ。長女香芝マミ。

マミ

（まくし立てて）記憶の長嶋記録の王さん、パタパタママにサンデー  
パパ、フーテン寅さん風船おじさん、借金地獄ノリノリ天国、酷  
いよ姉さんお黙りカツオ、夜霧よ今夜はブギーバック、昨日の味  
方は京野ことみ、明日は明日の風邪をひく、酒と泪なみだと男と男、送  
り狼出迎え。パンダ、飲んでよぎるは悲しい記憶、何の騒ぎだ授業

中だぞ、先生おしっこ止まりません、海は広いな大きいな、月は昇るし尾は東、過去も未来も陸おかに残し、いざ海原に漕ぎ出ん。短き生涯、何で綴ると尋ねられたら、迷わず私はこう答えよう。人で綴ると！ 人で綴ると！ 変な日記！

空間を引き裂くような落雷の音。全員一瞬にして、嵐の中を彷徨う船の乗組員。マミ、船首像の如く前方を見つめ続ける。

葉子　　メーデー！　メーデー！　救助を要請。現在位置は…。

薫　　手の開いてる奴は船尾の修復に当たれ。命綱を忘れるな！

\*　　おお！

高田　　くそ。波が高い。転覆するぞ。

蓮司　　前方に大渦発見！　船橋ブリッジ！　応答せよ！　前方に大渦！

薫　　回避イー！　取り舵一杯！

斑鳩　　聞こえない！

\*　　取り舵一杯！

蓮司 駄目だ！ 潮の方が速い！

葉子 メーデー！ メーデー！ 全然応答がないわ。

薫 構わん続ける！ 全員飛ばされてないか！

\* おお！

高田 潮の流れが変わった！

薫 面舵一杯！

斑鳩 駄目だ回頭不能！

薫 面舵一杯一杯！

高田 俺に代われ！

薫 突っ込むぞ！

大きな衝撃。全員の体勢を崩しワーキヤー言っている。ずっと椅子に座ったまま  
呆然と見ている菜穂子。

蓮司 <sup>ブリッジ</sup>船橋！ 岸壁が迫ってる！

三郷 今度こそ本物の海峡だ。

薫 大陸の果てだ。地図は間違っただけでなかったんだ。全員！ ここが正

念場だ。何としても持ち応えよ！

斑鳩 船長！ この海峡に名前をつける。俺達が見つけた証に。

薫 よし！ じゃあ、チンコ！

斑鳩 海峡ってつけれよ！

薫 海峡チンコ！

斑鳩 何で海峡が前に付いてんだよ！ 普通チンコ海峡とか…。

高田 その前にチンコ指摘しろよ！

三郷 波が変わった！

蓮司 船長！ 指示を出せ！

高田 船長！

薫 このまま海峡を越えて大陸の向こうへ。真実を確かめるんだ！

帆を張れ！

高田 帆を張れ！

\* 帆を張れ！

\*  
ファーラウエイ！

轟々たる波の音。

\*  
うわああ！

走り去る船員達。蓮司と菜穂子の二人が場に残る。丁度回想前と同じ状態。あ  
んぐりと口を開けている菜穂子。

蓮司　てわけでさ。

菜穂子　…全然理解できない。

蓮司　な！

菜穂子　「な！」って…。

蓮司　でさ、いきなり眠くなつて…。

葉子登場。その辺をモップがけしている。

菜穂子 …父さん会社辞めたの？

蓮司 ふざけてんだろ。菜穂姉も無理矢理ここへ？

菜穂子 え？

呆然と記憶を辿る作業中の菜穂子。

蓮司 菜穂姉？

菜穂子 え？ ああ。うん。店出てタクシー乗ったら、ガーって拉致られて。

蓮司 親父に？

菜穂子 ううん。

蓮・菜 …（同調）何ちゆう格好して…。

菜穂子はキャバ嬢、蓮司は海賊にも見える格好。

蓮司 これしかないんだ。姉ちゃんこそ何それ。

菜穂子 ああ、仕事帰りだったから。

体臭を気にする菜穂子。

蓮司 仕事って、おっさんと酒飲むような？

菜穂子 そんな感じ。

蓮司 セクキャバ？

菜穂子 (間髪入れず) キャバクラ。

蓮司 今、何処にいるの？

菜穂子 店の近くにマンション借りて。

蓮司 一人で？

菜穂子 一人で。…これって、船？

蓮司 うん。

菜穂子 …みんな乗ってるの？

蓮司 うん。

菜穂子 マミ姉も？

頷く蓮司。

蓮司 菜穂姉出てっから元氣ないよ。

菜穂子 そっか。

蓮司 親父、珍しく早い時間に家にいると思ったら。冗談じゃねえよ。

いい加減にし、母さん、さっきから何やってんだよ。

葉子 あ、蓮ちゃん。

蓮司 遅いよ！

葉子 これどういうこと？

蓮司 こっちの台詞だよ！ 拉致ってんじゃねえよ。母さん、あの味噌

汁に睡眠薬か何か混ぜたろ。

葉子 睡眠薬に味噌汁を混ぜたの。

蓮司 余計タチ悪いよ！

葉子 聞いて蓮司。睡眠薬に味噌汁を混ぜたの。

蓮司 何で二回言うの？ …俺本当にこんなことしてる場合じゃないんだけど。

葉子 …。

蓮司 ちよっと聞いてんの？ う…。

蓮司、船酔いの様子。

葉子 元氣そうね、菜穂子。

菜穂子 …。

葉子 みんなで出かけるなんて、いつ以来かな。…旅行なんてしなかったもんね。

菜穂子 父さん、車の免許も持ってないんだから。

葉子 持ってたんだけどね。

菜穂子 …？

葉子 前の奥さんが車の事故で…。話したことあるわよね。

船医三郷登場。若く見える女性。

三郷 起きた？

葉子 起きた。

三郷 はい。

三郷、蓮司に薬を渡す。

蓮司 何これ？

三郷 船酔い、酷いんでしょ？

菜穂子 誰？

葉子 三郷さん。

蓮司 父さんの知り合いだって。

蓮司にひつつきすぎな三郷。

甲板長高田、航海長（操舵士）四十歳代後半の男性。何かの作業を終えた後らしく、濡れた髪をバスタオルで拭いている。

菜穂子 ？

葉子 お疲れ様。

三郷 お疲れ。

葉子 どうだった？

高田 （菜穂子に）お目覚めですかおせうさま。（葉子に）いやあ潜って船底ぐるっと見て回ったけど、何処も何ともなってなかった。斑

鳩あいつ、船底に頭ぶつけて血い流してたけど。

三郷 もう血も止まってるわ。

高田を睨む菜穂子。

菜穂子 …高田さん、どういうこと？

席に着く斑鳩と高田。高田は酒を瓶で呷る。

蓮司 知ってんの？

高田 偉いね。俺の名前覚えててくれたんだ。下調べ兼ねて二、三回行っただけなのに。えと。

葉子 菜穂子。

高田 菜穂子ちゃん、あの店さ、指名料高いよお。

斑鳩登場。頭に包帯を巻いて来る。

高田 おまえはあ。

斑鳩 いやあびつくりした。

菜穂子 あんたらだよな。タクシーで私のこと拉致って眠らせたの。

三郷 ごめんね。

葉子 菜穂子。拉致とか言わないの。

菜穂子 拉致じゃん。何なんだよ。あんたら。

葉子 お父さんのね、高校時代の同級生よ。

高田 甲板長の高田です。

三郷 え？ ああ、船医の三郷です。

斑鳩 え？ ああ、航海長の斑鳩です。取りあえず船長に代わって状況を説明しておくね。この船が現在位置を見失って十二時間経つけど…。

ど…。

菜穂子 遭難してんの？

斑鳩 なーにそんな縁起でもないこと言っちゃってんの？ 周りにとつてちよつと、行方不明になってるだけだ。

菜穂子 だからそれを遭難って言うんだろ？

斑鳩 そんな難しいこと言われても。

菜穂子 何処が難しいんだよ。ここ何処だよ！

斑鳩 海だよ。

菜穂子 だから海の何処だよ！ 何処に進んでんだよ！

斑鳩 そんな概念ないよ。

菜穂子 そんな概念ないよ。

蓮・菜 はあ？

蓮司 わっけわかんね！ ありえねえよ！

酒瓶から口を放す高田。

高田 …ごちやごちやごちやごちや。ごちやごちやごちやごちや。愛だ

の恋だの。

蓮司 …。

高田 いいじゃん、取りあえず前には進んでんだから。

菜穂子 わかんないなら進まないで、戻れよ！ せめて止まれよ！ バカ

じゃねえの？

高田 何でお袋でもない人にそんな風に言われなさいといけねえんだよ！

蓮司 遭難してんだろ、だったらやるべきことがあるだろ！

高田 おまえ甲板では俺より偉そうにするな！

蓮司 遭難してるんだったら、それなりにやるべきことがあるんじゃない

いですか！

高田 あーそうですねえ、でもそういうことは全部航海長に任せてるから。

蓮司 （斑鳩に）遭難してるんだったら、それなりにやるべきことがあるんじゃないですか！

斑鳩 そうだ。まず最初にホントに遭難してるかどうか確認することから。

蓮司 だからしてんでしょ！

斑鳩 あと、みんなで役割分担して、協力することだな。

菜穂子 もう、何なんだよあんたら。

葉子 お父さんのね、高校時代の…。

高田 （葉子に同時）甲板長の高田…。

斑鳩 （同時）航海長の斑鳩…。

三郷 （同時）船医の三郷…。

菜穂子 一遍に言うなよ！ ねえ、母さん。その人（三郷）も同じ高校？

葉子 うん。

菜穂子 じゃあ、父さんと同い年？

三郷 うん。

菜穂子 父さんの高校って男子校だよ。

葉子 そうよ。三郷さんは、こう見えて昔は男だったのよ。

間。

蓮司 え？ 女の人ですよ？

三郷 今はね（笑う）。

斑鳩 いい？ クルー全員役割を果たさないと動かないんだよ。帆船っ

ていうのは。

蓮司 クルーじゃねえよ。

高斑三 乗ってんだろ！

蓮司 乗せたんだろ！ 薬で眠らせて拉致って無理矢理乗せたんだろ！

菜穂子 大体、これの何処が海賊なんだよ！  
あんたが一番海賊っぽいんだけど。

水に濡れたらしく、ズボンの裾をたくし上げている蓮司。頭に巻いたバンダナの後頭部に髑髏マーク（できればここで初めて見える）。笑う斑鳩。

蓮司 煩いな！ 何笑ってたんだよ。

ぴたりと笑うのをやめる。

三郷 菜穂子ちゃんは甲板を全部モップ掛けして、その後、お母さんに

従って料理の手伝い。食事後見張り番。

菜穂子 しねえよ。ふざけんなよ。

三郷 蓮司君は靴磨き長。

蓮司 ……

三郷 頼りにしてる。（サイン）

蓮司

してねえだろ。長って、ひとりだろ。

斑鳩

だから、おまえが誰の靴磨くか指示出せばいいんだよ。

蓮司

じゃあ、あんた、靴磨けよ。

斑鳩

それくらいひとりでやれよ！

蓮司

もう！ どういうつもりですか。俺らをこんな所に。

葉子

蓮司。蓮司。海賊になるってちゃんと説明したじゃない。

高斑三

聞いてるんじゃないか。

葉子

聞いてないみたいない方して。

間。

蓮司

…いや、聞いてたらしいみたいなの、何「やれやれ」みたいになっ  
てんだよ。おかしいだろ。いきなり海賊になるとか言われて、  
「はあ？」ってなってんのに。いいから、遭難したなら早く救助信

号か何か出せよ！

高田

うわあもう、おまえさ香芝の息子じゃなかったらあれだよ、上半身船首像みたいに突き出して下半身は船尾像？反対の、船の反対の方のあの、反対から出してエビ天のエビが井からはみ出してる、安いエビ天じゃなくて、天井屋さんとかのエビ天みたいみたいにして、横から見たら、胴長げ、って、実際見る人いないけど、いたとして…。

中途半端な所でやめる高田。

蓮司

はあ？

高田

俺ら海賊だぞ。助けてもらって、「おたくら何なの？」とか質問されたら、どうすんだ。毛布にくるまってあったかい珈琲出して貰って「ちよっと海賊やって」とか答えるのか？ 恥ずかしいでしよう。

蓮司

じゃあ、海賊なんかすんなよ。てか今はそんなこと言ってる場合

じゃないんですよ。

斑鳩、煩いから出してやれ。

珈琲？

信号。

どうやって？

おまえが作ったんだろ。

ないけど、そんな設備。

何で？

何でって、え？ こっちが何で？ なんだけど。

は？

なくてこんな海の真ん中まで来たわけ？

そんなこともあるわよ。

ないよ。何このカオス。何で無線ないの？ 普通船にないわけな

いだろ。

だって、こんなの作ったことないもん！ そもそもこの子を海に

斑鳩

蓮司

葉子

蓮司

高田

斑鳩

高田

斑鳩

高田

斑鳩

高田

斑鳩

高田

浮かべるつもりなんてなかったのに。

蓮司 この子！

菜穂子 海に浮かべない船って何だよ。

斑鳩 観賞用だよ！

菜穂子 何だよ観賞用って！

斑鳩 ボトルシップだよ！

菜穂子 こんなでかいボトルシップがあるわけないだろ！

三郷、手で天狗。

菜穂子 何!?

三郷 怒らないのお。

蓮司 仮に百歩譲って、ホントにボトルシップ…。

高斑三 何、百歩譲ってんだよ！

蓮司 聞けよ！ ホントにボトルシップだったとしてどうやってボトル

から船を出したんだよ。

三郷

頑張って。

蓮司

だからどう頑張ってボトルシップのボトルから船を出したんだよ。

間。

高田

割って。

蓮司

…。

葉子

斑鳩さん、よく割る決心してくれたわ。

斑鳩

「こんなでかいボトルシップ造る奴も笑えるけど、それを割る奴はもっと笑える。伝説ってそういうことじゃないかな」って高田に

言われて。

後悔が急に襲う斑鳩。

三郷

派手な進水式だったねー。

高田

上手いこと言うなあ。船よりでかい瓶でな。

斑鳩 進水式……。 (乾いた笑い)

高田 しっかし、よく作ったなこんな船。

高田、床をガンガン蹴る。

斑鳩 な。三年かかったんだ。ちよ、乱暴に扱うなよ。

高田 どうせさおまえさあれだろ会社の従業員に手伝わせたりしたんだろ。まあでも凄いや、よくできてる。おまえのこと親の遺産継いだだけなのに勘違いしてる、能なし二世経営者かと思ってたけど。

菜穂子 その通りだろ。会社にしたら。こんなの造って。

高田 大丈夫か？ 水漏れとかよ？

斑鳩 材料全部、ホームセンターでカットしてもらったんだ。

菜穂子 バカ？

葉子 浮いてるだけで丸儲けよね。

斑鳩 え？ そうだよ。そうなんだよ。みんな期待しすぎなんだよ。

蓮司 さっきから聞いてたら、何なんですか、え？ これの何処が海賊

ですか。大体、海賊になって何がしたいんですか。

その質問、そっくりそのまま返すわ。

意味わかんねえことすんなよ。俺は全くなりたくないんだよ。ちよっとお。

三郷

いやん。

蓮司、背後にべったりひっついてる三郷を振りほどく。

高田

酷いな。さっきまでベタベタされても何も言わなかったのに。

蓮司

…。

菜穂子

同窓会やるならあんた達だけで勝手にやってよ。何で私らまで。何

の真似か知らないけど、店に行かなきゃいけないの！早く戻ってくんない？

高田

そう言うな。同じ水商売だろ。

三郷

どてっ(笑)。

全員 （リアクションの古さに）…。

蓮司 「どてっ」て…。携帯返してほしいんだけど。

菜穂子も自分の衣服のポケットを調べるが、携帯電話はない。

斑鳩 船長がバキバキに踏んで壊してた。

蓮司 は？

三郷 ま、どうせ圏外だし。

菜穂子 何で壊してんだよ。何やってんだよ。救助呼んで。

三郷、手で天狗。

菜穂子 だから何なんだよそれ！ いいから救助呼べよ！

斑鳩 だから無線はないって。

高田 俺がいつも家で使ってる奴積んでるから。

蓮司 何でいつも使ってるの？

斑鳩 呼び方とかわからないし。

蓮司 メーデーメーデーとかって映画とかでやってるでしょ。

斑鳩 メーデーって何？

三郷 あのメーデー？

高田 メーデーはストライキだ。

蓮司 は？

葉子 蓮司、ストライキがしたいの？

蓮司 は？ え？ 映画とかで叫んでるだろ。

高田 だからメーデーとか言っても意味わかんないだろ。

三郷 メーテルメーテルじゃない？

葉子 蓮司、メーテル、メーテルじゃないの？

蓮司 は？

斑鳩 何処に叫ぶんだよ。

三郷 海に？

蓮司 俺どうしたらいいんだよ？

薫、ゆっくりと歩いて来る。

薫 フランス語で「私を助けて」って意味の言葉が英語のメーデーと

発音が似てるから「メーデー」って言うようになったんだ。

菜穂子 父さん…。

薫 キャプテンと呼べ。

菜穂子 …。

薫 因みにメーターはギリシャ語のお母さんという意味だ。あと機械のメーターともかかっている。

斑鳩 どうだった？ 船長室は。

菜穂子 （薫に）何考えてんの？

薫 あの羅針盤はいいな。

斑鳩 だろ？

薫 あれも手作りで？

菜穂子 （薫に）聞いてんだろ。

斑鳩

十六世紀のものを忠実に再現したんだ。

薫

今となってはあれが模型なのが残念で仕方ないけど。

蓮司

残念すぎるよ！ それで遭難してんじゃねえか。

葉子

あの羅針盤を見る人もリアルに作ってあって。

蓮司

要らないだろ！ 捨てろよ。

菜穂子

こっちの羅針盤（脳）も模型じゃん？

薫

…。

菜穂子

何？

高田

ガキが調子に乗らないの。

菜穂子

そのガキの足触ったくせに。

薫、滑稽な程怖い形相で高田に近づく。高田、同じ歩調で後ずさり。

蓮司

おいキャブテン。

薫

蓮司も菜穂子も帆の畳み方を教えるからついて来なさい。

蓮司

は？

薫

賢いからもうわかってると思うけどな、おまえ達が船を動かす方法を覚えないう限り、船は帰れやしないよ。どんだけ反発しようが、甘えようが構わんけど、その分、波任せにぐるぐる彷徨うだけだ。船長に従わないならごはんもないわよ。

葉子

蓮、菜

…。

薫

ついて来なさい。

斑鳩

足、滑らせるなよ。

薫、去る。蓮司、菜穂子、不平を言いながらついて行く。

三郷

今のいいね。葉子さん。

葉子

本物の海賊ならこんな時どう言うかなって考えてたら自然に出て来たの。

高田

結局はみんなごはんを食べたい生き物なんだよ。

葉子

…ごめんなさい。

三郷 え？ 何？

葉子 巻き込んだりやって。みんな仕事もあるのに。

斑鳩 どうせ、俺、もうすぐ社長解任させられるし。

三郷 私もずっと休み取れなかった分いいきっかけだったし。

パンダの着ぐるみを着たマミ登場。空気が止まる。その辺を徘徊。振り返って、みんなの方を見るパンダ。

\* …。

三郷 あれ、マミちゃん？

葉子 うん。

急に船酔いになり、しゃがみ込む葉子。

マミ …。

三郷もしかして苦しいんじゃない？

斑鳩  
三郷

え？  
ほら。

斑鳩、パンダの頭を脱がせる。

マミ

僕は。ペジテのアスベル……。助けけてありがとう。

高田

…え、あ、うん。ええ？

三郷

（ヒソ）ちよっと。

マミ

驚くのは当たり前さ。僕らは腐海の底にいるんだよ。

高田

うん。そうだね。

斑鳩

マミちゃん。ここは危ないから部屋に戻ろうか。

マミ

…。

斑鳩

マミちゃん痛い！

どつかれている。

斑鳩 …あの？

葉子 (船酔いで気持ち悪がりながら) 今はアスベルって呼んでやって下さい。

斑鳩 はあ。…アスベル君？

マミ すまなかった。妹を看取ってくれた人を僕は殺してしまうところだった。

斑鳩 うん。大丈夫。…アスベル君。部屋に戻ろうか。嵐が来るから。

マミ だとしたら僕らは滅びるしかないさそうだ。

斑鳩 うん。そんなことないよ。

マミ …。

\* (ヒソ) どうすんの？

\* (ヒソ) そんなこと言ったって。

\* 葉子さ…。

葉子 すみません、マミをお願いします。

\* え？ ちよ。

ママ 動くな。

\* ?

ママ その子を行かせてやれ。

葉子、去る。

\* …。

ママ （アシタカで）その子は人間だぞ！

\* （ヒソ）変わったわよ。

\* （ヒソ）出展が変わった。

\* （ヒソ）どうしよ？

高田 何なんだ。

斑鳩 マミちゃんだよ。

高田 わかってるよ。

ママ …（斑鳩の正面間近に立ち、俯き目を合わせず早口で）かいろう海棲哺乳類の一種。ジュゴン目ジュゴン科に属する。象と同じ祖先を持つ。

斑鳩  
 夜行性で、昼間は海底で休む。時速約三キロで泳ぎ、深さ十二メートルほどまで潜る。好奇心旺盛で、潜水漁をする漁師の様子を見に来ることもある。くちびるや頬は大きく発達し、大量の海藻を食べるのに適している。人魚のモデルになったことでも有名。  
 …えと、痩せろって意味かな？ ねえ、マミちゃん。

マミ、斑鳩をどつく。

斑鳩  
 ちよ。

三郷  
 人を叩いたら駄目よ。もっと良い子だと思ったのにな。

マミ  
 猫被ってました。

三人  
 …。

マミ  
 おしっこ。

三郷  
 え？

マミ  
 出ない。

三郷 え？ どっち？

マミ、去る。

斑鳩 あ、待って。マミちゃん。

マミ、戻って来て、斑鳩をどついてまた去る。

\* ちよつと。

三人、マミを追いかける。

深夜。動きやすい格好になった菜穂子、イライラしながら歩いて来る。カウンターに酒を見つけ、腐ってないか確認して酒を呷る。三郷登場。

三郷 何も見えない夜の海。光のない世界。波の音と、揺れと、風に含

まれる潮と湿気と、昼間見た映像の記憶でしか確認できない海。

空との境界もわからない、ただ目の前の全てが闇。そんな闇が一  
望できる、お風呂が湧いたよ。

菜穂子 『お風呂が湧いた』だけでいいです。

三郷 慣れない船の上で疲れた？　これが毎日続くのよ。これ日焼け止  
め。

菜穂子 昼間渡せ…。

三郷 夜用。

手を出しかけて止まる菜穂子。

菜穂子 …こんなことして、何の意味があんの？

三郷 意味もなく、こんなことしないわよ。

菜穂子 だったら目的を聞かせて。

三郷 この海の何処かに菜穂子ちゃんの曾おじいちゃんの隠した宝が  
眠ってる…。

三郷、バントのサイン。

菜穂子  
？

三郷 香芝のお母さんのお父さんが軍に没収される前に海に棄てたって  
記録が出てきて…。

三郷、バントのサイン。

菜穂子  
そうなの？

三郷 相当な価値があるらしいわよ。

三郷、バントのサイン。

菜穂子  
癖？

三郷  
え？

菜穂子 その手。

三郷 ああ、緊張すると出ちゃうの。

三郷、バントのサイン。

三郷 …家に全然帰ってなかったんだって？

菜穂子 何なの、あんたら。どうして父さんに協力する訳？ 父さんの何？

三郷 同じ高校だったの。みんな。

菜穂子 …。

三郷 ずっと会ってなかったあ。昔の私を知ってる人とは会わないようにしてたのに。それがねえ…。

菜穂子 ？

三郷 …私と君のお父さんを引き合わせたのは、菜穂子ちゃん、君なのよ。

菜穂子 私が？

三郷、菜穂子に名刺渡す。

菜穂子 聖ポキールセント医科大学附属病院…。

三郷 菜穂ちゃん、うちの病院来たことあるよね。

笑顔の中にも緊張感がある三郷。

菜穂子 え？

三郷、席につく。

三郷 こないだ久々に飲みに行ってるね。見ないうちに、香芝があんなオヤジになっててびっくりし。

三郷、硬直。

菜穂子 え？ 何？ また？

(ウイイイ……ンガシン！って昇降機のような機械音) 三郷の回想。酒場。バーカウスターの中にバーテンに扮し、シェイカーを振るバーテンダー役の斑鳩がフリーズした状態でせり上がって来る。客に扮した高田、蓮司が硬直した状態でいつの間にかいる。菜穂子、三郷の向かいの席に座る。時は動かず。何度か腰を浮かして座り直すが、時は動かず。最初の回想の時に座った木箱が明るくなる。菜穂子、木箱に乗って着席。瞬間、時間とジャズが流れる。菜穂子、客役を兼ねて傍観。

薫登場。三郷の回想ゆえ、現実よりもオヤジぶりが誇張されている。

三郷 香芝。

薫 おう。

菜穂子 そこまでオヤジじゃねえよ！ 何誇張してんだよ。

薫 ここかあ、釈由美子が集まる店って。

菜穂子 集まるって何？

薫 いやあ、急な接待が入って。途中で抜けて来た。悪いな、遅れて。

薫、三郷の向かいの席につき、ハゲヅラを取り、ちよび髭を取り、テーブルに。

三郷 私も今来たところだから。

三郷、バントのサイン。

薫 嘘つけ。待ったんだろ。いまだに治ってないんだな。嘘つく時に

バントのサイン出す癖。

菜穂子 さっきの全部嘘かよ！「てへ」じゃねえよ！

三郷 もう。着替える時間もなかったの？ 別の日でもよかったのに。

薫 今日できることは明日に回さない主義だから。

三郷 なかったよね、そんな主義。

三郷をじろじろ見る薫。斑鳩、菜穂子に酒を出す。

三郷 何？

薫 幾つになった？

三郷

四十七。香芝は？

薫

一緒。若いな。

三郷

しょっちゅうインタビューと間違えられるの。部長なのに。

薫

何でそんな若いんだよ。皺もないし。

三郷

皺、取っちゃったから。

薫

一瞬誰かわかんなかったよ。ホントに女みたいだな。

三郷

取っちゃったから。

薫

おまえは何でも取っちゃうんだな。

三郷

そんなアホの子みたいに言わないで。

薫

ホント変わったな。喋り方も全然違うし。何年になるかな？

三郷

最後に会ったの、部活の同窓会だったかな？ ほら、斑鳩が酔っ

た勢いで背が伸びた…。

薫

あったなあ。斑鳩かあ。親の会社継いだんだろ。どうしてんのかな。

三郷

こないだテレビ出た。

薫

え？

三郷 世界最大のボトルシップ作ったって。

薫 へえ、ばかだなあ。

三郷 香芝のとこの真ん中の子、何って言ったっけ？ イワシちゃん？

薫 菜穂子？

三郷 そうだ、菜穂子ちゃんだ。うちの病院に来てたよ。

薫 菜穂が？

聞いててイライラしている菜穂子。

三郷 菜穂ちゃんは私に気づかなかったみたいだけど。ま、覚えてないのも無理はないか。最後に見た時、あの子ランドセルを背負ってた。

薫 ああ。

三郷 五、六個。

薫 ジャンケンの弱い子だった。しかし、菜穂子が何でお前の病院に？

三郷 うん、その話なんだけど。

斑鳩

ご注文、お決まりでしょうか。

三郷

香芝もウイスキー駄目だったよね。

薫

ああ、三郷と同じでいい。

三郷

うどん二つ。

斑鳩

あったかいのと冷たいのがありますが。

薫

冷たいの。

三郷

私も。

斑鳩

うどんの方、セットになってサラダかうどんが選べますが。

薫

じゃあ、うどんて。

三郷

私も。

斑鳩

セットのうどんはあったかいのと冷たい…。

菜穂子

早く進めろよ！

斑鳩

のがありますが。

薫

冷たいの。

三郷

私も。

斑鳩 以上で宜しいですか？

薫 あとお茶。

斑鳩 かしこ参りました。

三郷 菜穂子ちゃんって、今、大学生？

薫 いや、高校も中退して…。

三郷 そうなの？

薫 殆ど家にも帰って来てない。

菜穂子 …。

薫 ホント、何考えてるのか解らん。小さい頃はホント可愛かったの  
に。おっきくなったら天狗になるなんて言っただけ。

三郷 子供って夢があっていいなあ。

薫 なあ。もう、別の意味で成就しちゃった。

薫にメンチを切り、舌打ちする菜穂子。

薫 ぐずってる時にこう（手で天狗の鼻）やって天狗の真似したらす

ぐ機嫌良くなつて。

菜穂子 …（それか！ さっきの）。

薫 …で、三郷って何科だったわけ？

三郷 ヒト科。

薫 違う違う違う違う。

三郷 違うない違うない違うない。

薫 菜穂子がお前のお前の病院に行ったのかを。

三郷 ああ。外科。けど、来たのはうちの科じゃなくて。…産婦人科。

薫 …？

三郷 中絶…したって。

菜穂子 …。

薫 え？

三郷 …。

薫 …嘘だろ？

三郷 だったら癖が出てるわ。…これが記録。ホントは持ち出せないん

だけど。

薫 菜穂子が？

三郷 ああ。

薫 …その、妊娠してたと。

三郷 やっぱ聞いてないか。

薫、髪を掻き耨る。菜穂子と蓮司と同じ仕草で。

三郷 父親は誰か解る？

薫 儂だ。

三郷 じゃなくて。

薫 いや解らん。

三郷 今回が初めてじゃないみたいだよ。香芝に言うべきか迷ったんだ  
けど。

凄い形相の薫。

高田 何で、財布に二円しかねえんだよ。

蓮司 やっべ。

高田 ンハ、いいから早くおろして来いよ。

蓮司 ええ？

高田 ンハ、いいから早くおろして来いよ。

蓮司 ええ？

高田 ンハ、いいから早くおろして来いよ。

蓮司 ええ？

更に形相が酷くなる薫。

三郷 香芝？ 香芝？ 香芝？ 香芝？ 香芝？

薫 え？ ああ。

三郷 場所変えよっか。

薫と、三郷、席を入れ替わる。

薫 何やってるんだ。…あいつ、ひとりで病院に？

三郷 多分。丁度受付で用事してる時に名前呼ばれてたから気づいて。

香芝って珍しい苗字だから。

薫 …。

三郷 夜の仕事してるみたいな格好してた。ちようどあんな…。

三郷、菜穂子を見る。

薫 うちの菜穂子をあんな虫みたいな子と一緒にするな。

菜穂子 …一緒なんだけど。

斑鳩、うどんをカウンターに出す。

斑鳩 (菜穂子に) これ一番テーブルに。

菜穂子 私、客じゃないのかよ。…客に運ばすの？

三郷 どうするの？

薫 どうするって…。

菜穂子、テーブルにうどんを運ぶ。

三郷、うどんをむさぼる。

三郷 放っておいたら繰り返すよ、あの子。菜穂ちゃんがどんな気持ち

で中絶したかわかんない。…それだけは私にはわかり得ない。けど、

子どもが産めるのに…。

薫 儂な、仕事、辞めようかと思ってるんだ。

三郷 え？

薫 …ちよっと思うところがあつてな。…今の仕事続けてる限り、ま

ともに家族と向き合う時間も持てん…。

三郷 …別にそこまでしなくても。

薫 今の話聞いて、尚更その気持ちが強くなった。儂の親爺知ってん

だろ…。

？

三郷 仕事は長続きしねえでブラブラして、お袋働かせて、おまけに酒飲んで暴れて。…お袋も俺ら兄弟もズタズタだったよ。

三郷 今も許せないの？ 親爺さんのこと。

薫 許す？ 許すって何？ あいつのせいでお袋おかしくなったんだよ。

…。

三郷 …おまえこそ、どうなんだよ。許してもらえたのか？

三郷 …（首を横に振って）一昨年死んじゃった…。

…。

三郷 最期にさあ、私のこと呼んでたんだって。でもねえ、抜けらんないオペがあつてさあ…。

薫 そっか。儂はあんな親にだけはなりたくなくてさ、それで、家族のために休まず走ってきたんだよ。それが、何で同じ景色に辿

り着くんだよ。

…。

自分の子なのにな、どうやって話し掛けたらいいかわかんないんだよ。こっちは家族養うためにへこへこになって働いてるのに、うちに帰ってもおかえりのひともない…。

香芝はまださあ、取り戻せるじゃん…。

…じゃん。

仕事、辞めてどうするの？

さあ。家族と向き合う時間が作れるならそれで…。

でも、今、家出て暮らしてんでしょ？ 菜穂ちゃんが振り向こう

としないんじゃない？

ふう。だったら奪えばいいか。

何を？

家族以外ものを。

だからどうやって？

三郷

薫

三郷

薫

三郷

薫

三郷

薫

三郷

薫

三郷

薫 …船ってボトルに入れておくものか？  
三郷 はあ？ ええ？

笑う三郷。

薫 斑鳩の連絡先わかるか？

三郷 ホームページがあるからメールで連絡はつくけど。

薫 うん。

三郷 …香芝。何かあった？

薫 （自虐的な笑いから高笑い） …ははははははは！

三郷 香芝？

客 アハハハハハハ！

女性客（葉子）慌てて店に駆け込んで来る。

葉子 釈由美子、隣の店で集まってるって！

客（薫、高田、蓮司、葉子）、大あわてで店を出る。回想終了。その場に残る三郷と菜穂子。

三郷　　という訳なの。

菜穂子　　長げえよ！

三郷　　あとは菜穂子ちゃんの知ってる通り。

菜穂子　　割愛できるとこいっぱいあったよね。

三郷　　誰か相談…。

斑鳩　　お会計、三千円になります。

斑鳩だけ回想が終わっていない。

三郷　　え？

斑鳩　　三千円になります。

三郷、財布から札を出して支払う。斑鳩、札を数える。

斑鳩 四千円からお預かりします。（レジにしまう）千円のお返しです。

ありがとうございます。

斑鳩、カウンターの中に消える。

三郷 誰か相談できる人いなかったの？ お母さんとか…。

菜穂子 何が？

三郷 身近な女性の先輩なんだし。

菜穂子 毎日、隠れて酒飲んでばっかの人に聞いてもらいたくもないし。関係ないじゃん。話したところでどうせ、臭い息吐きながら説教たれるのがオチ。誰か他人に話すかも知らないし。

三郷 まさか。

マミ、ズボンの中を確かめている。

菜穂子

何探してるの？

マミ

ちんこ。

菜穂子

最初からないだろ、そんなもん。

マミ

最初から？

菜穂子

…母さん、依存症の会に通ってる。

三郷

聞いた。『君は悪くない悪いのはお酒なんだの会』でしょ。

マミ

菜穂ちゃんの貸して。

菜穂子

ないって！ あっても貸せないって。

マミ

あっても貸せないって…。

菜穂子

…同じような人達相手に、家庭や職場の悩みを告白し合うの包み隠さず。旦那が単身赴任で孤独に勝てないとか、息子の嫁がどうしても受け容れられないとか、プロ野球引退して日雇いで働いてるけど、野球への未練を断ち切れないで息子にスパルタを強いてしまうとか。酒に頼る原因になってる環境から解決するのが方針

だとか何とか言って。

ママ  
その辺売ってないかな。

菜穂子  
自分の不幸を聞いてほしい人と、他人の不幸を同情したがる人が集

まってるの。自分の娘がさ、子供墮ろしたなんて格好のネタじゃん。自分のことで一杯一杯なんだよあの人。小さい頃からずっと見えてきた。

ママ  
買い置きしときゃよかったな。

菜穂子  
…ひとりで勝手にイライラしては、ママちゃん叱って。ううん叱ってんじゃない。当たってるの。溜まったストレスをただぶつけてんの。

ママ  
隠してなあい？

菜穂子  
だから最初からないって！

ママ  
だから最初からないって…。

菜穂子  
…ちっちゃいママちゃん相手に糞味噌になじって。だからママ姉はこんな風になった！

菜穂子、マミを抱きながら、三郷を睨む。

マミ ちんこ、どっか行っちゃった…。

三郷 一緒ね。

菜穂子 私、物陰で一部始終見てた。怖かった。怒られないようにしてた。マミ姉が壊れて、それであの人酒に走って。それから、掌返したみたたく大人しくなったけど。ホントあの人見てて思った。大人ってしょーもないなあって。

三郷 …菜穂ちゃんは知ってたの？

菜穂子 ？

三郷 その…、マミちゃんが連れ子だったこと。

菜穂子 結婚式の写真にマミ姉が写ってたから…。

三郷 そっか。

菜穂子 …親父が悪いんだよ。いつも仕事仕事仕事仕事…。ずっと

とマミ姉が虐待受けてたことに気づかないでさ。それが今更…。

今更何がしたいの、海賊って。中途半端にイカれちゃって。だっ  
たら死ぬまで働いてくれた方がよっぽど立派だっつーの。

三郷 父親を何だと思ってるの？

菜穂子 …。

三郷 …。

菜穂子 私のこと軽蔑してんでしょ？

三郷 してない。

三郷、サイン。

菜穂子 そんな嘘が下手でよく女になろうなんて思ったね。

三郷 …。

菜穂子 とにかくとつとあの家出たかった。

ママ、海の方を凝視している。

マミ 菜穂ちゃん、ほら、戻ってきた…。

菜穂子 え？ 何？ 何が？

マミ さっき食った物が。オエエエ（嘔吐）。

菜穂子 わあ！ ちょっと待って。おっさん、バケツ。

三郷 おっさん？ え？ おっさん？

菜穂子 何でそんなに干渉すんの？

三郷 …私も親に虐待された口だから。

三郷、バントのサインをして去る。

菜穂子 サイン出してんじゃねえよ…。

葉子、登場。

葉子 菜穂子…。

マミ おええ。

菜穂子 ほら、こっち！

菜穂子、ママを引っ張って去る。

葉子 ……

菜穂子が飲んだ後の酒を気にする葉子。置いてある絵本を手にして朗読しはじめる。

葉子

…ポルトガルを離れ、一路南米へと辿り着いた若者率いる五艘の船は、そこから更に南へと向かいます。そこはまだ正確な地図さえない場所。しかし若者は信じていました。どんな大陸も必ず終点は三角になって終わりがあると。船は進み、ある日若者の想像している場所に辿り着きました。一同は激しく喜びました。が、先へ進むと、それがただの大きな川だと解って、がっかりさせられました。船員達の中から、不満も出始めました。

いつの間にか薫、高田、三郷、斑鳩の四人がテーブルを囲んでトランプをしており、葉子が負けたために罰ゲームで誰かのモノマネで絵本を朗読していた。

\* えええ？

高田 わかんねえわかんねえ。

斑鳩 今の誰？

葉子 ええ？ もうわかんなかったら、いい。

薫 誰だよ。

葉子 ○○○(有名人の名前)。

間。

\* …ああ。

葉子 ああってもう、ホントこれキツいわよ。

薫 よしもっかいもっかい。次、高田入れ。

高田 もうねえよ。

三郷 その絵本ってさ、あん時のだよね。

薫 え？ ああ。

三郷 うわあ、まだとってあってたんだ。

斑鳩 なあ、懐かしいな。香芝が持ってたのか。

首に双眼鏡をぶら下げた蓮司が現れる。マミもついて来ている。

斑鳩 どうだった？ 見えたか？ 日付変更線。

蓮司 いえちよつとわかんないです（言ってることが）…。

斑鳩 マミちゃん、眠くないのか。

マミ お腹空いた。

蓮司 さっき食べただろ。

マミ さっき食べた。

蓮司 次、誰ですか？ 見張り。

高田 おまえだろ。

斑鳩 俺か。

高田 じゃあ、葉子さん入って。

葉子 ええええ？

薫 船長さんが言いました。入って下さい。

葉子 もう。

斑鳩、席を立て葉子が代わりにテーブルを囲む。高田、紙に勝敗を記録している。斑鳩、デッキヘ。

斑鳩 マミちゃんってずっとあんな感じ？

蓮司 こんなって？

斑鳩 淡々としてるって言うか…。

蓮司 そうかな。…あ、でも菜穂姉がずっといるから、嬉しいみたいだ

けど。

斑鳩 ふーん。(わからない)…見てたら菜穂子ちゃんの方がお姉ちゃん

みたいだよな。

蓮司

そんな風に思ったことないけど。

葉子

（トランプ組）手加減しなくていいの？

高田

（トランプ組）いいよお。

斑鳩

…蓮司君変わったな。

蓮司

は？

斑鳩

やあさあ、出航した頃は、何かもう何だよ海賊って！ みたいな

感じでギャーギャーギャーギャーキレちゃってたけどさ。（自分

で自分のことツツコミ上手いと思ってる人みたいな感じでキレ

ちゃってたけどさ。「俺を見て」みたいな感じで、自分大好き人間

みたいな感じでキレちゃってたけどさ。）意外とあれだよな。逆らっ

たら飯抜きってゲームに乗って来て来たよね。

蓮司

乗っかるも何も、それ従うしかないから。何処にも逃げらんない

船の上でさ、食いもん押さえて言わないで。船降りたら二度と親

爺と一緒に行動しないから。

斑鳩、天を見上げる。

斑鳩

んなこと言って、本当はあれなんじゃないの？ 海見ながら頭の中でウルルンの曲とか流してんじゃないの？

蓮司

何処が。

斑鳩

凄いはら見て見て。ほらほら。

斑鳩に促されるまま天を見上げる蓮司。

斑鳩

ここまで首が曲がる。

蓮司

…。

斑鳩

海はいろんなことを教えてくれるから。

蓮司

そうですか。

マミ

蓮司君、海って何？

蓮司

目の前に広がってるだろ。マミ姉、海は平気なんだな。

蓮司

プールは見るのも嫌がるのに。…なあ、波がだんだん高くなって

るんだけど。

波ってどれ？

蓮司  
ええ？

薫  
…まあでも動かない羅針盤でよくここまで来れたもんだよ。

高田  
昔の船乗りは星見て航海したんだ。ま、海賊にできないことなん

てないからな。

マミ  
海賊にはできないことはないの？

高田  
ああそうだよ。

マミ  
海賊にはできないことはないの？

高田  
うん。そうだよ。

マミ  
ふうん…。鼻からご飯食べれる？

高田  
うん。後でね。

斑鳩  
早稲田落ちるつもりだったんだって？

蓮司  
今何て言った？

斑鳩  
どうして早稲田？

蓮司 行きたい会社の社長が早稲田の哲学コースからばかり採ってて。  
 斑鳩 行きたいトコ？  
 蓮司 出版社。…別に興味ないでしょ。

間。

斑鳩 ああ、結婚したい。  
 蓮司 …。

間。

斑鳩 …俺ら同じ高校で演劇やっててね。  
 蓮司 今の何？  
 斑鳩 香芝、芝居で食ってきたいってずっと言ってたね。  
 蓮司 非生産的じゃねえか。…あの人、ホントに男だったんですか？  
 斑鳩 三郷？ ホント変わったよ。全然あんな喋り方じゃなかったし。

蓮司  
でよ、そんな中で香芝がさ、芝居しないかって誘ってきてさ。  
ふうん。

斑鳩  
もう、昔のことだからよく覚えてないけど、香芝、マゼランやっ  
てたなあ。

蓮司  
マゼラン？

斑鳩、薫硬直。高田、マミ、葉子いなくなる。三点鐘。時間が止まる。

蓮司  
え？ 何これ？ ちよ、航海長？ …ええ？

蓮司、斑鳩の顔の前で手を振る。薫は鼻を掻いている状態で静止している。蓮司が薫の肘を手で何度か押すと、薫は鼻を自分の手でぶっつけてしまうが時間は静止したまま。

蓮司  
ここに座ると時間が動き出しそうだな。

蓮司、菜穂子が回想の時に座った場所に座る。

時間が流れる。斑鳩の回想。高校の教室。

薫

(捲し立てて) だから要するにいわゆるだな。何だかんだ言って、海って、例えばさ、やっぱりこういうもつとさ、凄い俺とかお前とか。

斑鳩

(対抗して) 何がどうって訳じゃなく。ちよつと全くその辺がだからあれなんだろうな。凄い俺とかお前とか。

蓮司

覚えてないなら回想に入らないで下さいよ!

薫

君こそ忘れてしまったのか。我々の果たすべき使命を。

蓮司

?

薫

(急に芝居がかって) 確かに地図は間違っていた。

蓮司

?

薫

だが、私の意志は変わらん。…副船長、まだ、この先なんだ。果

てのないと思われていたアフリカにだって南の果て喜望峰きぼうほうがあっ

た。先へ進もう。

薫、決められた立ち位置に。斑鳩は座り、葉子とその横に座りプロンプターをしている。マミは葉子の横にずっと座っている。

蓮司 ？

斑鳩 台詞。

蓮司 え？

斑鳩 「え？」じゃないよ。台詞入れて来いって言っただろ。解ってるの？

木余本番まであと何日か。

蓮司 え？

演劇部の稽古中である。薫がマゼラン役、斑鳩が演出家。蓮司はどうやら薫達の後輩で、相手役らしい。

薫 斑鳩、時間が惜しい。

斑鳩 (蓮司に) いいから本持って。

葉子、蓮司に台本を渡す。

斑鳩 「船長、あんたは港を出る時」…。

葉子 ここです。

蓮司 船長、あんたは港を出る時俺達に何て言ったか覚えてるか。

薫 行くぜ。

斑・葉 「何か言ったか？」

薫 何か言ったか？

蓮司 南には天国みたいな島がある、そう言った。だが実際はどうだ、南に来れば来るほど気温が下がってる。

薫 冒険に予定外はつきものだ。

「若い演劇」な手振りの薫。途中から台本を見ずに台詞を喋る蓮司。

蓮司 港を出て五ヶ月。どれだけ進んだ？ 船員達は皆、長旅で疲弊し

きってる。海峡と思っていたのが大きな川だと解ったあの時に、国に戻る決断をするべきだった。だが、あんたはそれを怠った。

いいか船長。全ての命運はあんたひとりが握ってる。今はまだ少ない犠牲で済んでいるんだ。

葉子

「済みきっているんだ。」

蓮司

済みきっているんだ。己の名声と、二五〇人の命。どちらが大切か、よく考えるんだ。

蓮司

あんたも国に結婚して間もない奥さんを待たせてるんだ。解るはずだ。

薫

あるんだよ。この先に必ずあるんだよ。陸の切れ目が。この大地は丸い。永遠に続く大陸なんてものはありはしない。

蓮司

引く勇氣もある。

薫

ここまで来て、何の航路も見つけられずにおめおめと帰れるか。

マミ

うにうに。

薫

うにうにと帰れるか。俺は認められたいんだよ。

蓮司

危険なんだよ。

薫

臆すな、副船長。みんな命は捨てる覚悟で港を出たはずだ。結果

を生むためには、相応のリスクが必要なんだよ。必ず真実は最後に笑ってくれる。この先に海峡があることは確実なことなんだ。確実に近づいてるんだ。

高田、食卓の回想の、何部かわからない格好で登場。

高田

…破滅にな。

斑鳩

ごめん、ちよっと止めて。

高田

何だよ斑鳩。

斑鳩

いや、時間が。

三郷登場。

葉子

あの、もう学校閉まりますから。みんな急いで下校の準備して下さい。

斑鳩

ええ？ 何とかしてくれよ、葉子ちゃん。

葉子

そんなの無理です。あと私、みなさんの顧問で先生だから。葉子ちゃんじゃなくて先生って…。

斑鳩

何その格好？

高田

三郷に聞けよ。

葉子

聞いてないし。

三郷

今日はちよと衣裳持て来れなかつたよ。

斑鳩

は？

三郷

昨日衣裳と小道具今、色塗り直して、朝乾いてなかつたから。

葉子

だからね、これ（ラケット）が刀の代わりで、これが双眼鏡の代わりで、これが…。

斑鳩

説明されても、わかんないよ。今日でも雨降ってるし、この寒さじゃ外でやるわけにも…。

三郷

斑鳩の家で稽古できないか？

斑鳩

え、できるけど。

高田

できるのかよ。それ早く言えよ。じゃ急ごう。

薫 俺、今からちよつと先輩んところ行かないと。

斑鳩 ええ？ 主役いなくて練習できないよ。

薫 話済んだら後から行くから。

葉子 先輩って？

三郷 香芝の彼女で、中学の時の先輩ね。

葉子 へえ。さ、早く出て下さい。ただでさえ三年生は部活禁止なのに。

三郷君、医学部受けるんでしょ。

高田 じゃあ斑鳩、先家戻って片づけといて。俺、みんな誘導してくから。

斑鳩 国鉄の踏切越えたところだよな。

斑鳩 うん。

三郷 僕、家に戻って衣裳取ってくるよ。

斑鳩 あ、絵本。

高田 俺が持つてく。

斑鳩、去る。

三郷、葉子、蓮司、ママ去る。

高田、置いてある絵本を手に取り読み始める。

高田 海峡の向こうには果てしない海が広がっていました。最初はみんな大はしゃぎでしたが、行けど行けど、見えるのは海と空だけです。九〇日が過ぎました。食糧は尽き、病人が増え、船乗り達は次々と死んでいきました。

薫 妊娠したかも知れないって言われてさ…。

高田 え？ ユミ先輩に？ どうすんの？

薫 俺、卒業したら家出て働くし。そしたら先輩と一緒に住むと思ってたし。先輩は俺にプロの劇団入ること薦めてくれてたけど。俺が働かないと…。

高田 香芝、部活辞めるとか言わないよな。

薫 おまえは、プロになること目指して頑張れ。

薫、去る。

高田

…船は、何日も何十日も、太平洋を彷徨さまよい続けました。突然、誰かが叫びました。陸だ。若者の目には、それまで幾度となく騙された蜃気楼ではない、本物の島が映っていました。…その島で若者を待ってたのは、大きな感動でした。東南アジア出身の召使いエンリケの言葉が、この島の人に通じたのです。若者は、とても感動しました。地球が丸いことが証明されたのだ。エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ。次はいよいよ自分の番だ。

嵐。葉子、蓮司、菜穂子、三郷慌てた様子で積み荷を移動させたり、帆を上げたり、懐中電灯を持って甲板を徘徊したりしている。

菜穂子 マミちゃん！ 何処お？

蓮司 いた？

菜穂子 いないよ？

蓮司 ええ？

菜穂子 海に落ちたとかじゃないよね。

船、揺れる。

\*  
きゃあ！

蓮司 縁起でもないこと言わないよ。…まさかそれは…。

菜穂子 この暗さじゃ探しようがないよ。

マミ、斑鳩に連れて来られる。危機感なく徘徊している。

斑鳩 救命ボートの中で寝てた。

全員胸を撫で下ろす。

葉子 マミ。外は危ないから、中に入りなさい。

葉子がマミの手を取ろうとすると、マミ、ヒステリックに拒絶し、逃げ去る。

菜穂子 マミ姉！

菜穂子、斑鳩、マミを追いかけて去る。

葉子 マミ…。

三郷 …。

葉子 私のせいなの。

三郷 先天的な原因だって言われたんでしょ？

葉子 医学のことはわからないけど、マミがああなったのは私のせいな

の…。

揺れる船。全員よろける。

薫、戻って来る。

蓮司

こういうことがあるんだよ。素人だけでこんなバカなことしてたら、次こそ本当に取り返しをつかないことが起こるぞ。ここまで

大して海も荒れずにいたからたまたま運良く進んでただけなんだよ。

薫 ……こういうことがあって、初めて身につくこともあるんだ。

蓮司 ……本気で言ってるの？

薫 耐性をつけておけ。訪問者は突然来るからな。

蓮司 散々家、ほったらかして思いつきで父親面してんじゃないよ。マミ姉のことだって…。

薫 蓮司。

蓮司 （続けて）ずっと菜穂姉のお人好しに甘えて押しつけて。何かに気づいたのは偉いよ。けど、こんな破天荒なやり方以外にあっただろうが。

薫 聞け。

蓮司 （続けて）菜穂姉に何かあったんだろ。俺だって薄々感じてたよ。

薫 けど、俺関係ないだろ！ 受験どうしてくれんだよ！  
聞け蓮司。

蓮司 煩いよ。  
薫 儂、癌だ。

間。

蓮司 …え？  
葉子 …。  
蓮司 …何それ。

揺れる船。

\*  
蓮司 わあ！  
…何それ。  
葉子 時間がないの。  
蓮司 母さん、知ってたの？

斑鳩登場。

斑鳩 蓮司君、持ち場に戻れ！

薫 斑鳩、みんなに救命用具を。

斑鳩 わかった。

斑鳩退場。

蓮司 持ち場って靴磨きなんだけど…。

葉子 蓮司。

蓮司、葉子去る。

薫 何かホント嘘みたいだ。体も調子がいいし。自然に帰ることで勝

手に治ったりしてな。

三郷 そうだよ。

三郷、サイン。

薫 サトラレか…。

三郷 え？ 出たた？

薫 ああ。

三郷 葉が効いてるから。

薫 ……そっか。

三郷 ……。

薫 悪かったな。

三郷 え？

薫 巻き込んで。

三郷 家族五人だけでこんな船動かせないでしょ。それに船医も必要だろ。うし。

薫 まあな。

三郷 ごめんね。ていうか、私がかけた所もあったし。香芝こそ、

三郷 本当にこんなことして良かったのかな？

薫 ああ。

三郷 部外者が顔を突っ込むべきじゃないことは解ってたんだけど。私、持ちたくても持てないから。家庭って。

薫 三郷…。

三郷 菜穂ちゃんと話まだしてないんですよ。

薫 …心を開くことができると思うか？

三郷 香芝に親爺さんを許すことができるなら。

薫 …どうして今あいつのことが出て来るんだ。

三郷 葉子さんに禁酒サークル紹介したの、親爺さんだよ。

薫 は？ 親爺が禁酒してたなんて聞いてない。

三郷 知ろうとしなかっただけですよ。香芝が家出てから、亡くなるまで酒断ってたって。

三郷、封筒を渡す。

薫  
これは？

三郷  
葉子さんがずっと預かったまんまだった手紙。葉子さんから香芝に渡しても読まずに捨てるだらうからって。

薫  
…。

三郷  
親爺さんね、よく香芝のこと自慢してたよ。

薫  
必ず真実は最後に笑ってくれる…か。

三郷  
え？

薫  
真実ってのは、ここって時には、いつだって自分の想像したのと違うところで笑ってやがる。

三郷  
聞いていい？

薫  
何？

三郷  
何で海賊なの？

薫  
…。

薫、ただ笑うだけ。歩こうとしてふらつく。

三郷 香芝？

薫 （手紙を読む）『旅に出ます。しばらく病院休みます。クリスマス会までには復帰します』

床に手をつき項垂れる三郷。

薫 …これおまえのじゃないのか？ 間違えて、提出したのか？

三郷 …。

薫 おまえの病院、こんなのでいいのか？

三郷 …。

薫 しかもこれ、クリスマスまでもたないってことか？

三郷 違うの。そういう意味じゃなくて。（サイン）あああ！

間。

薫 おまえ、あっちいけ。

三郷、去る。菜穂子登場。酒を作って、薫に渡す。

菜穂子 はい。

薫 え？ ああ。

菜穂子 三郷さんから聞いたんだって？ 中絶のこと。

薫 …。

菜穂子 別に後悔とかしてないし。私は私の思う通りにしてきただけ。今までもこれからも。何とも思っていないから、気にしないで。ていうか、言われるまで忘れてたくらいだし。

薫 …。

菜穂子 家々、完全に出ることにした。帰ったら荷物全部運び出すから…。

薫、懐から菜穂子の携帯電話を出す。

菜穂子 壊したんじゃ…。

薫 沢山登録してあるな。

菜穂子、奪い取る。

薫 最近の携帯はややこしいな…。

菜穂子 人の携帯勝手に覗いてんじゃねえよ。

薫 その中に名前だけで二人、電話番号もメールの住所も登録されてないのがあった。どっちも香芝ナントカって。下の名前は聞いたことない。

菜穂子 …。

薫 一番に出てきたぞ。そんな上に登録してて、どうやって忘れるんだ。名前までつけて。何でそうやって自分を犠牲にするんだ。

菜穂子 もういいって！

薫 男が望んだからか？

菜穂子

関係ないだろ。

薫

心配してるんだ。

菜穂子

しなくていい。

薫

後悔してるのか。船だけに。

菜穂子

だったらどうだってんだよ！

あんたには関係ない！

薫

何ができることがあれば…。

菜穂子

何もない。

薫

儂は。

菜穂子

何もない。

薫

お前に。

菜穂子

何もない。

薫

何かしてやりたくて…。船に乗せたのだって…。

蓮司、怒鳴り声が聞こえて、何事かと登場。陰で様子を伺っている。

菜穂子

…ふざけんなよ。勝手なことすんなよ。私が望んでると思ったとか、

何、決めつけんの？ そんなのただのエゴじゃねえか…。私のためなんかじゃないだろ。自己満だろ…。

男に言われたことそのまま僕に言うんじゃないよ。

菜穂子

…。  
：おまえがホントにやりたいようにやってるなら、何も言やしね

えよ。何もないことないだろうが。

菜穂子  
何もないって！

何もないことないだろ！

菜穂子  
だから何もないって！

何かあるだろうが！

菜穂子  
だったら時間を巻き戻せるかよ！

問。

薫  
：それでいいんだな？

菜穂子

できるわけないだろ。

薫

届けは出してある。

菜穂子

は？ 何の届けだよ。わけわかんねえこと言ってんじゃないよ！

薫

…大学に行くんだ。

菜穂子

え？

薫

菜穂子は高校出てないから、大検取るところからだ。

菜穂子

…。

薫

家に金なくて…。

菜穂子

大学なんか行か…。

薫

(遮り) 蓮司一人大学行かせるのがやっとなか、俺が高卒だから

大学に行く意味なんてないと思ってるのか、おまえこそ勝手に決

めつけんじゃないよ！

…。

菜穂子

薫

別におまえがなあ、この先どんな人間になろうが俺の知ったこつ

ちやねえんだよ！ 俺がどんな父親だと思われてるかもな！ 鬱

陶しがろうが何だろうが。ただな！ 今のおまえの心が泣いてるの  
はさ、そりゃほっとけないだろうが！ いいか！ 頑張んな！  
適当にやれ！ ウチに戻りたくないなら戻らなくていい。けど、  
戻る場所がないわけじゃないんだからな。  
菜穂子  
…もう戻らないよ。

菜穂子、去りかける。

薫  
それでも構わん！

菜穂子  
…。

薫  
だから頑張るな。

薫の言葉に菜穂子は出て行こうとしていた足を止めてしまい、先に薫が奥の部  
屋へ。菜穂子が出て行かないのは前に高田が突っ立っていたためでもあり。

高田  
やっぱオモロいわ。香芝。

菜穂子

頭おかしいんだよ…。

高田

おかしいよねえ。んー、あいつもさ父親らしいところ見せたかったんじゃないの？

菜穂子

今更なんだよ。

高田

なあ。今更だよな。そりゃ自分があと何日生きられるかわかんないって知ったらおかしくもなるんだろうけどさ。

菜穂子

え？

高田

なあ、今までさんざん家族ほっぽらかして、こんなさ、ほんの何日か家族に目を向けただけで、取り戻せるわけないだろうに。家族だけじゃなくて変な人達もいるしなあ。

菜穂子

今のどういう意味!?

高田

…。

菜穂子

何日も生きられないって。

高田

え？ 聞いてないの？ あああ。こういうの本人の口から告白するべきだよな。まあいいや。俺がぼろっと言ったって言うなよ。

高田

…。

菜穂子、高田の頬を平手打ちして去る。

もし香芝が後で言ってきたら、今初めて聞いた的に頼むよ。てかさあ、侵されたくない領域、ズツカズツカ土足で踏み躪って、挙句の果てに君達をこんな厄介に巻き込んで。俺は止めたんだよ。菜穂子ちゃんももうさ、ひとりて生活してんだから。香芝より稼いでんだもん。こんな意味のないことするより、自分のやりたいうことすりゃいいの。って俺は言ったんだよ。こんなことしたって最近の子に通用しないって。ほっときゃいいのにさあ。なあ。あいつはバカだよ。頭おかしいんだよ。娘より稼ぎ少ない奴が大学行けとか偉そうに言ってんじゃねえよ。…って思ってたんだろ。

斑鳩登場。高田の正面に立ち、指示を待つ。高田、斑鳩の頬を平手打ち。

斑鳩

どうして！

高田

…どうした。

斑鳩

どうしたじゃねえよ。どんどん嵐の中心に近づいてる。どうすん

だよ、高田！

高田

どうする、船長。

薫、酒を喰らっている。

高田

斑鳩。船が沈まないよう、ぐっと押さえておけ。

斑鳩

え？

高田と斑鳩、去る。マミ、いつの間にか浮き輪を持って登場している。

薫

…（気配に気づき）マミか。

マミ

おそらく。

薫

飲むか。

マミ 飲むか。

薫、マミに缶酎ハイを持たせる。

薫 菜穂子の船出に。

乾杯。缶ビールを呷る薫。

薫 門出か？ ま、いいや。

マミ ……。

薫 菜穂子はさ、五人で動かす船を一人で漕いでたんだな。みんなが漕がない船を一人で……だから疲れたんだ。うん。

マミ 疲れた…。

薫 疲れて、降りちまったんだ。ひとり乗りのボートに乗ってよ。今まで自分の行きたい場所にも行けなかった分、自由に漕いでんだ。その自由、奪っちゃ駄目だよな。いつまでも菜穂子が必要として

ちやさ。じゃないとあの子は幸せになれない。わかるかい？

マミ

…。

マミ …いつもだ。壊れかけた物を修理しようとする、却って悪化させてしまふ。

マミ

悪化させてしまふ…。

マミ …マミのことだって。ホントはな、全然わからないんだ。何考えてるのか。どうしたらいいのか。時間作って海賊になってみたけど、意味なかったあ…。笑えるなあ。

マミ

笑わない。

マミ

え？

マミ

どうして笑う？

マミ

儂は…。

マミ

解ろうとしてくれた。私のことわかって一杯努力してくれた。

薫

マミ どうして笑う？  
真実…？

マミ

笑わないよ。笑う訳ないだろ。ありがとうって思ってる。パパの子でよかったって思ってる。自信持ってるよ。無理することないから。もういいから。

薫

マミ……。

マミ俯く。物陰で様子を見ている蓮司。

薫

…笑ってくれよ。

マミ

？

薫

笑ってくれよ。マミ、お前さ、感情、何処に忘れてきたんだよ。

マミ

…。

薫

まだこんな小さい時にさ、マゼランの絵本、あれ見てマミ、ニコって笑ってよお、「海賊になりたい」って。マゼランは海賊じゃないって言ってるのに、海賊になりたいって。なあ。

マミ

…。

薫

…海賊になったんだぞ？

マミ  
…。

薫 …もう覚えてないのか？ …海賊になる夢も。…笑い方も。

蓮司  
…。

錆びついた表情筋。それでも懸命に笑顔を作ろうと試みるマミ。

薫  
マミ…？

ぐちゃぐちゃな表情でマミの頭を撫でる薫。

薫 みんなその本が好きだったな三人とも。蓮司はそれ見て絵本出版する人になりたいって言うし。

蓮司  
(覚えてた…。)

薫 菜穂子はそれ見て、天狗になりたいって。…誰ひとり普通に読まねえでやんの…。

蓮司  
…。

薫 世界一周でもするか。この船で。

マミ 世界一周…。

薫 マゼランみたいにさあ。

マミ マゼランは途中で死んだんだよ。

薫 ……そうだったな。

マミ ……帰ろ？

薫 ……え？

マミ ……ウチに帰ろ？

薫 ……そっか。ああ。帰ろう。

マミが背中を向けたところで薫、気を失って倒れる。ドサっという音にゆっくり振り返るマミ。倒れている薫を見ても何か反応するわけでもなく、ただゆっくりと体を揺らしている。蓮司、飛び出す。

蓮司 ちよ？ なあ、なあ！（頬を叩く）姉ちゃん、三郷さん呼んで。

マミ パパ、もう眠たいんだよ。

蓮司 何言ってるんだよ、マミ姉！（薫に）おい、ちよ！

マミ  
眠たいんだよ。

三郷、葉子登場。冷静に薫を見つめる。

三郷  
香芝？

蓮司  
三郷さん。

三郷、薫に駆け寄り、脈や瞳孔を確認。

三郷  
葉子ちゃん。最初に断わっておいた通り…。

葉子  
うん。

三郷  
大した医療道具も持って来てないから、気休めくらいの処置しかできないよ。

葉子  
解ってる。

蓮司  
解ってるって、解ってて何で止めなかったの？ こんな陸から離れてどうすんだよ、病院にも行けないだろ！

葉子 解ってたからよ！

蓮司 …癌って、別に死ぬって決まったわけじゃないんだろ？ 手術し

て切り取ったら治るんだろ。

葉子 気づくの、遅かった。

三郷 末期なの。

船揺れる。

\* わあ！

蓮司 嘘つけよ。あんなピンピンしてただろ？

三郷 モルヒネで抑えてたから。

蓮司 サイン出せよ。何か方法あるんだろ？移植するとか…。

葉子 何処にあるの？ その肝臓は。

蓮司 …。

葉子 何処にあるの？ ここに持って来て。

蓮司

…。

斑鳩登場。

斑鳩

何してるんだ。蓮司君。

蓮司

ちよっと黙ってるよ！ …状況が見えねえのかよ。

斑鳩

見えてないのはどっちだ！ 浸水してるだろ。ここはひとりついていけば足りる！

斑鳩、蓮司に柄杓を押しつける。

葉子

斑鳩さんの言う通りよ。母さんが残るから。蓮司行って。

船揺れる。

\*

わあ！

蓮司  
斑鳩

…。  
さあ、マミちゃんも！

斑鳩、マミの手を掴む。マミ、喚いて拒絶し、斑鳩の手を噛む。

斑鳩  
三郷  
蓮司  
斑鳩  
蓮司

痛！ 蓮司君、先に行ってるぞ。  
靴持って来る。少しだけ痛みを和らげられると思う。  
起きろよ。あんたの船だろうが。  
…俺の…。  
命令しろよ！

斑鳩、三郷退場。菜穂子、物陰に隠れて壁にもたれて座り込み、様子を聞いている。

蓮司  
マミ

…。  
何で柄杓なんだよ…。

蓮司 マミ姉、父さんいなくなるんだってよ。

マミ パパ、寝てるだけだよ。

蓮司 もうずっと目え覚まさないんだよ。

マミ そんな訳ないよ。どしてそんなこと言うの？ そんなやなこと言

うの？

蓮司 姉ちゃんだって、本当は解ってるんだろ！ 父さんは病気なんだ

よ！ 治らないんだ。

マミ (初めて感情を出して) パパいなくなんないもん。マミとおウチに

帰るって言ったもん！

蓮司 マミ姉、泣いてるの？

マミ 今日までお仕事一杯やったから、お仕事、やり過ぎてなくなった

から、お休み貰って一杯遊んでくれるんだもん。お芝居観に連れ

てっってくれるんだもん。

蓮司 もうできないんだよ！ 死んでしまふんだよ！ 卑怯だよ。自分

だけ現実から逃げて。

マミ 何でそんな怖いこと言うの？ 誰なの、お兄ちゃん！ マミのパ

パのことお父さんなんて呼ばないで！

蓮司

！

葉子 …マミ？

マミ あー。あー（壊れる）。

蓮司 ふざけんなあああああ！

マミに突っかかる蓮司を葉子、体で止める。

葉子 蓮司、お願い、もうやめて！ 早く行って！

蓮司 でも！

葉子 行きなさい！

揺れる船。葉子、マミに手を差し伸べるが、マミ拒絶。去りかける蓮司の前に  
高田登場。蓮司に雨合羽を渡す。

高田 ……怖い？

蓮司 ……何が？

高田 父親がいなくなってしまうのが。

蓮司 ……急すぎだろ。

高田 心配なのは、学費のことだったりして。

蓮司 ……どういう意味だよ。

蓮司、去る。

軋む船。激しい雷鳴。

薫の手を取る葉子。浮き輪を身につけて床に座り込み、体を揺らし、ぶつぶつ呟いているマミ。

葉子 ごめんねえ…。薫ちゃんごめんね。

菜穂子、登場。

菜穂子 バカだな。ホントに立派な人だったことに今頃気づいて…。

マミ  
立派って何ですか、教えて下さい。立派って何か教えて下さい。

立派って何？ 何が立派ですか。

高田、絵本を拾う。

高田  
そんな安直な言葉で片付けんなよ。菜穂子ちゃん。

菜穂子  
何だよ。他人が。

高田  
今まで適当にあしらっておいて、何、上手いことまとめようとしてんの？ ってマミちゃんは言ってるのかも。

菜穂子  
は？ ひとり現実受け入れられずに、壊れてる奴が？

高田  
君の親父は何一つ報われなかった。我慢して必死になって保つた普通を君は当然の普通として、何も考えないできたんだ。

菜穂子  
煩い！

高田  
菜穂子ちゃんには到底できないだろうことを、やってのけたって、父親だから、できて当然だって思ってきただろ。後悔こそすれ、評価なんかね。

菜穂子 そんなこと、解ってる。

高田、マミに絵本を渡しながら。

高田 解ってないよ。君は。解ってない。君、これから一生考え続けるんだ。

結婚して子供を生んでその子供達に理解されないうまま老いて朽ちて頭に輪っか生えて漸く口にしてもいい言葉なんじゃないのか立派な父親だったって。何もしないうちから口にしてしまうのでは、薄っぺら過ぎるだろ。

マミ 薄っぺらい。

菜穂子 言われなくても解ってる！

葉子 父さんは解ってもらえて嬉しいって思ってるわよ。

マミ 戻らせない。菜穂ちゃん、家に戻らせない。

菜穂子 何でそんなこと言うんだよ！ 姉妹きょうだいだろ！

マミ …。パパと約束したから。

菜穂子 どうして帰ったら駄目なんだよ。ずっとマミちゃんのことみて来

たの、私だろ！

マミ 要らない。菜穂ちゃん、要らない。

菜穂子 黙って出てったこと怒ってるなら謝るからあ！

高田 行けえ！

菜穂子去る。葉子、薫の手を取る。

マミ パパに触れないで、おばさん。

葉子 マミ。

嵐、いよいよ苛酷を極める。マミ、絵本を開き、辿々しく、しかし波音にも劣らぬ声で朗読を始める。

斑鳩登場。斑鳩と二人で、葉子とマミに避難を促すが、マミは拒絶して絵本の朗読を続ける。二人は葉子にマミを託し、薫を搬出する。一連は音のない演技で行われる。

マミ エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ。次はいよいよ

よ自分の番だ。しかし、喜びも束の間、この島を占領しようとする欲張った若者は、逆に原住民に殺されてしまったのです。若い船長を失った船隊は、五か月かけてたった一隻になってスペインに帰り着きました。生き残ったのはたった十八人。中でも新しい船長には、絶大な荣誉が与えられました。航海日誌や若者の貴重な手記は、何者かによって全部焼き捨てられ、必死の思いで記したマゼランの遺言は、何ひとつ実現されなかったのです！

マミ、緩やかに本から目を離す。

マミ 何で気づかなかったの？ こうなる前に。何でいつも過ぎてしま

うまで、気づかないの？

葉子 見えてなかったの。本人だって大したことなさげだったんだから。

マミ 悲しい？

葉子 当たり前でしょ。死んじゃうのよ。

マミ 死んだら悲しい？

葉子

悲しいわよ。ママには解らないの？ 誰が死んだって悲しいに決まってるじゃない。

ママ

誰が死んだって悲しいに決まってるじゃない。じゃあ、何でママの頭お風呂に突っ込んだの？

葉子、思わず自分の口を押さえる。

ママ

何で？ 教えて。何で？

葉子

ずっと、心の中で私のこと責めてたんだねえ。二十年も。

ママ

ママの肝臓。パパにあげる。

葉子

ママちゃん！ できないのよ。

ママ

どうして？

葉子

肝臓がないと生きていけないからよ。

ママ

もういいの。ママ生きてても、誰も喜んでない。菜穂ちゃんも出てった。ママ、パパに生きてほしい。パパいないのに、ママ、生きてたくない。ママの肝臓ならピッタリ合うでしょ。

葉子

無理なの。

マミ

違う！ できるんだよ。海賊なんだから。マミもおばさんも海賊なんだから。

葉子

無理なのよ。血が繋がってないのはお父さんの方なんだから。

マミ

…。

葉子

本当のお父さんじゃないんだから。マミちゃんが提供したって、意味ないの。気づかなかった？ そうよねえ、これだけお父さん子なんだもんねえ。

船、揺れる。

葉子

本当の父親じゃないから、最初は巧くやっていけるか不安だったけど。何てことはなかった。マミちゃん、いつでもパパ、パパ。お父さん仕事仕事でウチのこと全然してくれないし、私が全部やって、それで貴方の子育て重なって一杯一杯になっても、マミちゃ

んが背中むずがって、泣き止まないで、お父さん次の日の仕事に差し障り出たらいけないから、私が朝までさすって、それでもパパ、パパ。貴方産んだの私なのよ。なのに私ばっか嫌な役回りでお父さんのお義母さんはボケるし。世話してたのに、苛められるし。

船、揺れる。

葉子

そりや子連れの再婚だわ、よく思われることはないにしても、前の旦那が遊び人って何処かで耳にして、そのことで、だらしのない嫁って、近所の人がいる前で。でも耐えた。なのに、それをあんたが真似て言ったのよ！ やってられなかったのよ。

マミ

葉子

ごめんなさい。マミ。

マミ

繋がってない…。

葉子

マミだけが味方だったから…。マミだけが…。

浮輪を持った蓮司登場。放心のマミ、蓮司の脇を抜けて、退場。

蓮司　　マミ姉？　…母さんも、これつけて。

蓮司、変な浮輪を葉子に預ける。

高田登場。

高田　　葉子さん…。

…。

高田　　香芝、宝島、見つけられたのかな？

葉子　　…たぶん…。

高田　　…うん。…一応表向きは三郷の病院に入院してたことにしてもら  
うよう頼んでるから。

葉子　　ありがとう、高田君。

高田　　いいんだ。…来月。

葉子 ？

高田 マミちゃん迎えに行くから。マミちゃんみたいな子が一緒に自立

しながら生活してて、施設の人もみんないい人達だから。大丈夫。

葉子 …もうちよつとだけ、時間くれるかな？

高田 え？ …ああ。

葉子 ごめんね。いろいろ。蓮司も、ありがとうね。

蓮司 …何が？

葉子 …大学行くお金は、父さんの保険が降りるから。…大丈夫だから…。

蓮司 …。

葉子、高田に会釈し、退場。

蓮司 どうしてここまで？

高田 ？

蓮司 親父の親友だったって…。

高田 …苛められてたんだ。香芝が転校して来るまで。斑鳩も、三郷も。

蓮司      それだけのために？

三郷、駆け込んで来る。

三郷      菜穂ちゃんがない！

蓮司      菜穂姉！

高田      蓮司君はもうボートに乗れ。

蓮司、三郷、高田、去る。

葉子      菜穂子お！

菜穂子、息を切らしてフラフラになって歩いて来る。その場に跪く。

菜穂子      …みんなどこ…？

誰もいない。

菜穂子　　メーデー！

菜穂子、意識が朦朧とし、菜穂子の耳は周囲の音を拾わなくなっていく。  
薫、登場。マゼランの格好で、片足を引き摺っている。

菜穂子　　父さん？

薫　　君も無事か。：随分人数も減ったもんだ。あの海峡を越えて何十日経ったか。何処まで続いているんだ、この海は。

菜穂子　　？

薫　　君は結婚してるのか？

菜穂子　　？

薫　　私は国に家内と子供を待たせてるんだがな。もう会えるかどうか、解らん。

菜穂子　　親爺？

薫　　なあ、ひとつ頼まれてくれないかな。もし、私がこの旅の途中命

尽きたとして、君が無事に祖国に戻ることができたら、その時は、これを家内に渡してほしいんだ。

薫、菜穂子に封筒を渡す。

菜穂子

言ってることが解らないよ！ しっかりしろよ。

薫

長いこと陸おかを見てないといつ弱気になってしまふ。

菜穂子

私のことが解らないの？

薫

それには、この航海で手に入れた財宝を家族に与えるように指示してある。

斑鳩登場。マゼランの部下の格好。衰弱。

斑鳩

船長、来てくれ。またひとり死んだ。

薫

祈りは済ませたのか？

斑鳩

まだだ。他の奴が不安がってる。近く反乱が起きるかも知れん。

薫、立ち上がる。

菜穂子 父さん？

薫 それ、頼んだよ。

斑鳩、薫去る。マミ、絵本を持って木箱の上に立つ。

マミ でも、のちのち海峡に、若者の名前がつけられたことだけが、たったひとつの報いでした！

全員登場。マミ以外、全員雨合羽。

斑鳩 海がなくなってるぞ！ 渦だ！ 飲み込まれるぞ！

高田 全員所定の位置につけ！

斑鳩 回避！ 回避！

高田 舵を切れ！ 取舵だ！

斑鳩

取舵一杯！

\* 取舵一杯！

三郷

ミーデー！ ミーデー！ 聞こえますか！ 救援をお願いします

す！ …はい！ 聞こえています。

マミ

船長さんが言いました。笑って下さい。

菜穂子

船長さんが言いました。頑張らないで下さい。

蓮司

船長さんが言いました。そのままです。

葉子

船長さんが言いました。ただ、生き続けて下さい。

全員

船長さんが言いました。ただ、生き続けて下さい！

全員、携帯電話を取り出し、耳に当てる。

全員

ミーデーミーデー聞こえますか。

ランダムに繰返し、携帯を持つ手をひとり、またひとり降ろしていく。

菜穂子 ……メーデー、メーデー、聞こえますか。私はここにいます。

三郷 菜穂子ちゃん。短き生涯、貴方は何で綴りますか？

菜穂子 ……何で、綴る？

マミ ……人で。

全員 オーバー…。

溶暗。幕。